

独立行政法人農畜産業振興機構補助事業

四国生乳販連ニュース

四国四県の生産者と連合会をつなぐコミュニケーション紙

第21号

発行日／平成23年3月20日

発行所／四国生乳販売農業協同組合連合会

〒760-0023 香川県高松市寿町1丁目1番12号

編集・発行人／菊川 時彦



平成23年度事業計画を策定(第26回臨時総会)

平成23年2月20日香川県高松市「ホテルニューフロンティア」において第26回臨時総会を開催いたしました。山下会長より、酪農情勢の近況をふまえ挨拶し、山下会長を議長に選任の後、議案の審議に入りました。

第1号議案「平成23年度事業計画設定の件」、第2号議案「平成23年度理事及び監事の報酬に関する件」「付帯決議案」について、全て議案原案通り可決承認されました。

終了後、「全日空ホテルクレメント高松」にて、第43回生乳受託販売委員会と第10回理事会を開催し、平成23年度生乳計画生産対策、生乳取引、23年度需要期生産奨励実施要領、等の協議を行いました。

本号では、総会で決定した23年度事業計画の概略と、販売委員会・理事会で決定した23年度の生乳計画生産対策、季節別乳価対策の内容を掲載いたします。

開会挨拶（四国販連 山下会長）

中央酪農会議の理事会で、全国の生産量が決定し、23年度は増産型となる。四国の本年度の生乳生産量は、14万トンを超える見通しで、生産基盤の弱体化が著しい。

23年度の計画生産は増産型で、9月・12月に数量調整をできる仕組みも含め上程する。これを通じ、四国全体で基盤確保の対応を行うので、農家の皆様に安心して搾っていただくようお願いしたい。



閉会挨拶（四国販連 柳瀬副会長）

我が国のTPP協議参加の検討が、3月と6月に山場を迎えることになる。各地でも盛んに緊急集会が開かれている。TPP参加により、酪農にも大きな打撃を与える試算があるが、関連情報が少ないことも不安を煽っている。生産者組織として、こうした対応を決して許してはならない。

ぜひ皆様のお力で、反対へのご協力をお願いしたい。



平成23年度事業計画の概要

1 基本方針（概略）

- ・ 景気は徐々に回復に向かう見通しがあるが、資源や食料は、新興国からの引き合い、投資マネーの流入で、上昇すると考えられる。
- ・ わが酪農業界では、抑制型計画生産、国内での口蹄疫発生・拡大、記録的な猛暑等が生乳生産に影響を及ぼしている。
- ・ 環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）に関連する動向や、上昇傾向にある飼料価格が、先行きの不安を生んでいる。
- ・ 四国の生乳生産は停滞を極めており、このままでは、酪農の再生産確保、販連の生乳販売・安定供給が困難となることが危惧される。
- ・ 全国の方針も踏まえ、四国として計画生産対策を見直し、中期的に生乳生産基盤の維持・拡大を図り、安心して生産できる環境づくりに取り組む。
- ・ 23年度は生産コストの上昇が避けられないと考えられる。酪農と同様、乳業の置かれた状況も厳しいが、23年度の取引価格に理解を求め、酪農経営の安定のための対応を図る。
- ・ その他、①生乳の有利販売、需給調整拠点を活用した飲用化促進対策、②生乳の品質向上対策、③集送乳経費等の削減対策、④生乳の安全・安心確保対策、等の強化を図る。

2 生乳の取り扱い・収支計画

(1) 生乳取扱計画

(単位：トン)

項目	計画数量
生乳	140,356



(2) 収支計画

(単位：千円)

科目	計画金額	備考
販売品販売高	14,877,736	
販売品販売原価	14,833,103	
販売事業総利益	44,633	販売高×0.3%
検査事業収益	53,014	配分検査料、牛群・依頼検査料収入
検査事業費用	53,014	検査委託料、検体輸送料、減価償却費、検査機器更新積立金
事業管理費	56,668	人件費、業務費、諸税負担金、施設費、その他管理費
事業損失	12,035	
事業外収益	139,334	受取配当金、受取補給金、受取補助金、雑収入等
事業外費用	125,220	支払補給金、支払補助金等
法人税、住民税、事業税	1,450	
当期剰余金	629	

四国の計画生産は実績対比100.5%の「増産型」

平成23年度の全国の計画生産は、乳製品需給の一定の改善や、全国的な生産の減退を受け、22年度実績見込み対比102.2%の目標数量が設定され、「増産型」で取り組まれることとなりました。

四国でも、以下の点を基本方針として、実質「増産型」の計画生産に取り組みます。

- ①四国産生乳の信頼を失うことにならないよう四国産生乳のブランド力を高め、乳業者への供給責任を全うする。
- ②酪農情勢の先行きの不安を払しょくし、生産基盤の一刻も早く回復する
- ③23年度から25年度までの3年間は、生産者が計画的に安心して生産できる環境をつくり、生産基盤の維持・拡大を図るための数量設定を全体で行う。

なお、四国での実施概要は以下の通りです。

- 1 22年度中に会員別に設定する「当初設定数量」は、140,356トン（22年度実績見込み対比100.5%）でスタートする。
- 2 9月と12月に会員別の目標数量調整を実施する。また、空枠の発生防止と目標数量の調整の柔軟な実施のため、超過・未達ペナルティを設けるが、会員別の超過ペナルティは、四国全体がペナルティ対象とならない場合は、原則適用しない。
- 3 目標数量の管理は、県内や地区単位での目標数量の流動化等の柔軟な対応を行い、廃業枠・個人別生産枠の調整による空枠発生防止のための取組みを継続する。
- 4 万が一需給悪化にともない、生産抑制・過剰在庫対策の実施等が必要となった場合には、特定の地域や生産者の生産動向が需給悪化に影響を及ぼしていないことを前提に、四国全体の共同負担で取り組むことを基本とする。

会員別の当初設定数量

	23年度計画生産		22年度実績見込み
	目標の配分数量	22年度実績対比	※1月まで実績
徳島県酪農協	37,930 トン	99.6%	38,000 (95.6%)
香川県農協	35,466 トン	101.0%	35,100 (101.2%)
愛媛県酪連	41,511 トン	100.3%	41,400 (94.0%)
全農高知県本部	25,536 トン	101.7%	25,100 (94.7%)
合計	140,356 トン	100.5%	139,600 (96.3%)

計画生産は、需要に応じて生乳を安定供給し、乳価の安定を図るため、「目標数量を目指して搾る」ためのものです。目標数量の大幅な未達成・生乳生産の減少は、国産生乳の消費の減少にもつながります。

また、目標数量を着実に達成し、生産基盤の拡大を図るためには、搾乳牛自家育成の振興、素牛導入の支援（導入資金補助、金利助成、制度資金借入支援、乳牛預託等）等の支援策が必要です。本会とも連携をとりながら、会員団体・農協でもこうした支援策をセットで実施していただきますよう、ぜひお願いいたします。

平成23年度季節別乳価要領について

四国管内の生乳を有利に販売する一環として、生乳の需要期に対して、的確な生産を誘導することを目的として、季節別乳価要領を設定しております。需要期生産へのご協力をよろしくお願い致します。平成23年度需要期生乳生産奨励実施要領は以下の通り、22年度と同様の内容となっておりますので、改めてご確認ください。

平成23年度需要期生乳生産奨励実施要領

(1) 目的

当連合会は、会員より委託された生乳を有利に販売する一環として、生乳の需要期に対して的確な生産を誘導することを目的として、季節別乳価を実施する。併せて、国の生乳不需要期支援緊急対策事業の措置を踏まえ、下記のとおり取り組みを実施する。

(2) 対象生乳

当連合会が、会員より生乳受託規程に基づき受託する全生乳（公共分を除く。）を対象とする。

(3) 対象期間

平成23年4月1日から平成24年3月31日までの期間とする。

(4) 季節別乳価の実施方法

不需要期積立金は -4円/kgとし、期間は4・5月及び12月から3月とする。

需要期奨励金は+6円とし、期間は7月から10月までとする。

不需要期		需要期						不需要期				
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月調整	
-4円/kg			+6円/kg							-4円/kg		

(5) 不需要期積立金の徴収並びに需要期奨励金の支払時期・方法など

①過不足金は、会員毎に管理する。

②年度末の実績確定後、4月分乳代で一括（積立金徴収と奨励金の支出）処理する。

③但し、年度途中で廃業した場合、各会員が当要領による過不足金が生じないように管理し、当該廃業者の最終の乳代精算時で個別処理を行う。

④事務処理方法等については、会員別・酪農家別の積立金と奨励金の計算書を年度末実績確定後、当連合会は作成し、会員に通知する。

(6) 経理処理

季節別乳価の積立金及び奨励金等については、他の勘定科目と区分して管理する。

(7) 本要領の統一

当連合会は第7回臨時総会等で決定した機能強化中期計画の方針に基づき、各県会員団体は当連合会が実施している本要領に統一するものとするが、会員団体等で別途の運用を行う場合は、四国生乳販連に内容等を報告する。

(8) 要領の変更

本要領の変更については、生乳受託販売委員会の意見をきいて、この連合会の理事会において定める。

附則 この要領は、平成23年4月1日より実施する。

平成22年度乳価の推移について

1. フール乳価の推移

今年度4～8月の期間については、乳価交渉中のため、飲用対策費等の支出がなく、更に年度当初からの適正な量を飲用化に伴う需給調整を行ってきました。このような加工数量抑制効果によって、21年度を上回る乳価水準を確保することができました。

一方、9～12月の期間については、22年度乳価交渉が決着した乳業者より、飲用需要創出・需要確保のための対策に伴う支出を直ちに開始しました。このため、9月分乳代精算時より乳価に影響が出ています。

対策費の支出方法は、4～8月の対策費の支出を下期に分割しているため、概ね1円/kg程度（ひと月では50銭～60銭/kg）の支出水準となっています。

(単位：円、トン)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
21年度単価	101.93	104.15	105.68	105.60	105.32	107.85
22年度単価	102.58	104.66	106.51	106.10	105.98	106.68
21年度との比較	+0.65	+0.51	+0.83	+0.50	+0.66	-1.17
受託乳量	12,605	12,793	11,868	11,621	10,941	10,611

月	10月	11月	12月	1月	2月	平均
21年度単価	107.33	106.38	103.87	104.12	105.61	105.19
22年度単価	105.76	104.94	103.11	101.78	105.72	104.85
21年度との比較	-1.57	-1.44	-0.76	-2.34	+0.11	-0.34
受託乳量	11,342	11,064	11,583	11,771	10,979	(計) 127,299

※平準化単価については、プレミアム乳代・成分加算金を除く。

2. 上期の集送乳経費の平準化の結果

平成22年度上半期の四国全体の集送乳経費は、1kgあたり5.77円/kgで、21年度上半期と比較し0.05円/kgの減少となりました。

21年度の上半期と比較すると、①受託乳量の減少による集乳経費の低下、②広域需給調整拠点からの域外搬出の増加による送乳経費の上昇、③集送乳経費の合計金額は減少したが、地域によって運賃設定が異なる(kg単位設定ではなく、1車当たりの運賃設定となっている地域もある、この場合、受託乳量が減少するほどkg単価は上昇する)、④CS経費は減少しているが固定経費(固定資産税や人件費等)は乳量減によりkg単価が上昇、等の要因が生じています。このため、掛かり増しとなっていないものの、kg当たりの経費単価は大きく変わっていない状況です。

今後、各会員団体との連携の中で、集送乳の合理化・経費の節減等に努めて参ります。また、年間の平準化は、3月分の乳代精算(4月)と同時に実施をいたしますので、よろしくお願い申し上げます。

平成22年度生乳の安全安心確保対策について

日頃より、良質乳の生産にご尽力いただき、ありがとうございます。

平成22年度の生乳の安全安心確保対策は、①チェックシート記帳率100%の実施と質の向上（継続）、②殺菌・消毒剤使用実態調査の実施、③塩化ジデシルジメチルアンモニウム（DDAC）を含む殺菌・消毒剤等の適正使用に係る指導（使用の中止）、④バルク室の衛生管理、施設管理の実態調査の実施、を四国全体の重点方針として実施しております。

チェックシートの記帳率の巡回調査結果をみると、四国全体で、完全な未記入の生産者は1戸ですが、項目別には記入状況が不十分なものも多くなっています。また、巡回指導員からは「まとめ書きをしている農家がある」といった声も聞かれます。

記帳は、日々の作業を都度チェックし、自らが納得した生乳を出荷し、その品質を保証するためのものです。引き続き、確実な生産履歴の記帳・記録をお願いいたします。

なお、上記②と③に関連するDDAC含有殺菌消毒剤の適正実施に関しては、会員段階での調査・指導の結果、四国内の使用戸数はゼロとなりました。

今後も、「生乳に最も残留しやすい」バルクや搾乳機器、乳頭の殺菌消毒・洗浄剤の使用に当たって、十分ご留意ください。

また、④のバルク室の衛生管理は、四国独自で集計を行ったものですが、調査結果によると、いずれの項目でも施設・衛生管理が不適切な生産者がある状況です。調査結果を基に、来期に向け、バルク室の適正な管理に向けた対応方針を、四国全体で検討する予定です。

四国ブロックの記帳状況

単位：戸

区分	項目	四国合計														
		四国合計			徳島			香川			愛媛			高知		
		良好	一部記入	未記入	良好	一部記入	未記入	良好	一部記入	未記入	良好	一部記入	未記入	良好	一部記入	未記入
A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C		
記帳状況	①動物用医薬品の投薬記録	397	91	20	114	34	10	92	26	4	143	11	0	48	20	6
	②ミルカー・バルククーラーの洗浄確認記録	468		40	146		12	115		7	150		4	57	17	
	③農業使用記録	441	21	46	151	4	3	104	11	7	149	5	0	37	1	36
	①～③の項目全ての記録	357	147	4	106	52	0	82	39	1	136	18	0	33	38	3
	④資材交換・消毒記録	359	91	58	114	26	18	76	29	17	135	17	2	34	19	21
	⑤飼料給与記録	409	50	49	139	4	15	87	14	21	142	12	0	41	20	13
	⑥バルククーラーの乳温記録	478		30	144		14	119		3	152		2	63		11
	⑦家畜排せつ物	410	51	47	133	15	10	82	21	19	138	13	3	57	2	15
	⑧肥料使用記録	413	50	45	146	6	6	85	28	9	149	5	0	33	11	30
	281	226	1	90	68	0	49	72	1	120	34	0	22	52	0	

四国のバルク室の衛生管理の状況

単位：戸

項目	四国全体														
	四国全体			徳島			香川			愛媛			高知		
	適正	一部改善必要	改善が必要	適正	一部改善必要	改善が必要	適正	一部改善必要	改善が必要	適正	一部改善必要	改善が必要	適正	一部改善必要	改善が必要
処理室内は整理・整頓されており、清潔で臭気がない。	447	58	7	135	22	1	112	13	1	148	5	1	52	18	4
処理室は牛舎と隔離されており、施設できる環境にある。	263	200	49	75	62	21	35	80	11	125	28	1	28	30	16
生乳処理室に、洗剤・殺菌剤以外の薬品を置かない。	432	68	12	140	17	1	104	20	2	144	8	2	44	23	7

平成23年度事業別生産者拠出金、手数料の概要

中央団体（日本酪農乳業協会・中央酪農会議）からの通知、本会臨時総会での組織決定を受け、下記のとおり、拠出金・手数料等の単価を設定いたします。（日本酪農乳業協会は暫定単価）。

一部で単価が削減となった以外は、内容に変化はありませんが、毎月の支払いとなっているものは、平成23年4月1日乳代分から適用させていただくこととなります。引き続き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお酪農関連補助事業は、既に事業メニュー・予算等が決定されておりますが、現段階では事業の詳細が未定です。関連する拠出金に関しては、単価等の通知があり次第、別途ご連絡することといたします。

1 拠出金（中央団体、四国4県牛乳普及協会）

		新旧	徴収方法	飲用等向け	全生乳	特定乳製品
				(飲用・学乳はっ酵乳)	(公共分除く)	(加工向け)
中央酪農会議	牛乳消費喚起対策事業(H22～3ヵ年)	組替新規	毎月	15銭/kg	—	—
	酪農理解醸成消費者対策事業	継続	毎月	—	4銭/kg	—
	需給調整機能強化全国支援事業	継続	※毎月	—	1銭/kg	—
	BSE対策酪農互助システム支援事業	継続	※年一括	—	1銭/kg	—
日本酪農乳業協会	消費拡大拠出金	継続	毎月	5銭/kg	—	—
		継続	毎月	—	—	2銭/kg
県普及協会	県普及事務局消費拡大地方拠出金	継続	※毎月	—	3銭/kg	—

注) 日本酪農乳業協会・消費拡大拠出金は、事業縮減のため、飲用等向け・乳製品向けそれぞれ1銭減額
※印は、年度末精算により払い戻しが発生する事業

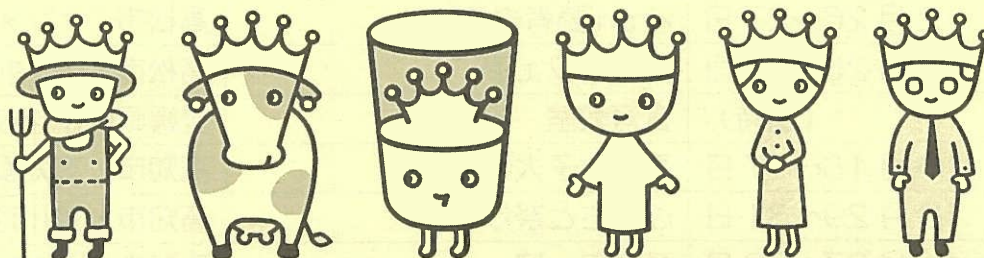
2 負担金（会費負担金）

	賦課金額	支払方法
中央酪農会議	4,601千円	年2回

3 生乳販売手数料（本会、受託生乳販売代金に対する料率）

	平成23年度手数料率	徴収方法
四国販連	0.30%	乳代精算時

MILK●JAPANTM



平成22年度乳質改善共励会の開催について

前号に掲載しましたとおり、平成21年度からスタートした「四国地域乳質改善共励会」を、平成22年度も継続して実施します。23年5月中に審査結果を取りまとめる予定です。

平成22年度 四国地域乳質改善共励会の実施内容

1 採点方法

年度（4月～3月）を通じて生乳を出荷した生産者のバルク乳の、4月1日～3月31日までの12ヶ月間の検査成績により採点する。4月から3月までの生乳検査成績36回に基づき、配点表による得点により審査を行う（細菌数は12回分の得点に3を乗じたものを適用）。

※配点表は前号に掲載。

2 選抜の方法

規模階層別に、①250トン以下、②250トン～500トン、③500トン以上、毎に規模別の区分を行ない、それぞれ上位5名（計15名）を入賞者とする。なお、最優秀賞はそのうち成績上位者5名、優秀賞はその他の10名とする。

3 審査の対象外となる場合

下記の要件に該当する生産者は審査対象外とする。

- ・期間中に脂肪分3.5%以下、無脂乳固形分8.3%以下の生乳があった生産者。
- ・販売不可能乳、抗生物質の混入による廃棄乳等の発生についての報告が会員からあった生産者。
- ・生乳生産管理チェックシート記帳に係る不備がある旨の報告が会員からあった生産者。

4 褒賞

最優秀賞（5名）：賞金10万円、盾、賞状 優秀賞（10名）：賞金 5万円、盾、賞状

5 審査終了予定

5月中に本会理事会で承認を得て、会員団体へ通知する予定。

消費拡大対策(MILK JAPAN)について

2010年10月より、この活動を一步進め、「牛乳が日本を元気にする。」をスローガンに、『MILK JAPAN』キャンペーンをスタートしました。四国各地のイベントや食育教室（愛媛県）においても、オリジナル絵本やシールを配布するなど、順次PR活動を続けております。

四国内MLK JAPANタイアップイベント一覧

	日程	イベント名	場所
徳島	10月10日	MILK JAPAN LAND in 徳島	徳島市・新町川公園
		第24回徳島牛乳まつり	
香川	12月4～5日	第8回香川県畜産フェア	高松市・サンメッセ香川
	2月26～27日	kirari 読者の集い	高松市・サンメッセ香川
	3月26～27日	讃岐牛フェア	高松市・サンポート高松
愛媛	(随時)	食育教室	愛媛県内小学校
高知	10月16～17日	高知女子大学学園祭	高知市・高知女子大学
	10月29～31日	ふるさと祭り	高知市・鏡川河畔
	11月27～28日	畜産フェア	高知市・駅前とさてらす

23年度の取組みにつきましては、決まり次第、改めてご報告させていただきます。

平成22年度2月までの生乳需給をめぐる情勢

1. 平成22年度2月までの受託販売実績（生乳生産動向）速報値

- 北海道では前年比99.0%、都府県では95.1%、全国では97.1%と、北海道・都府県ともに減少。猛暑の影響が長引き、減少幅が拡大しています。
- 四国では、全体で前年比96.4%となっています。県別には、徳島95.9%、香川101.8%、愛媛93.8%、高知94.5%で、一部地域でのジャージーからホルスタイン飼養への転換等で増加を示している香川以外は、依然低調な推移が続いています。
- 受託農家戸数は、497戸と、前年度末と比べ35戸減少しました。

全国・北海道・都府県と四国の受託販売実績

(単位：ト、%)

	第1四半期	前年比	第2四半期	前年比	第3四半期	前年比
北海道	981,292	99.6	958,890	99.2	916,148	98.2
都府県	956,728	96.8	864,230	94.8	2,684,915	95.3
全国	1,938,020	98.2	1,823,121	97.1	5,541,546	97.2
四国	37,266	97.1	33,174	97.0	33,988	95.8
徳島	10,299	95.3	9,131	97.1	9,166	95.8
香川	9,191	101.5	8,390	103.1	8,661	101.5
愛媛	11,164	96.6	9,794	93.8	9,971	91.8
高知	6,611	94.9	5,859	94.0	6,190	95.2

	1月	前年比	2月	前年比	4~2月累計	前年比	2月末出荷戸数
北海道	317,440	98.5	290,657	99.3	3,464,728	99.0	/
都府県	298,761	94.2	277,500	94.4	3,261,176	95.1	
全国	616,201	96.4	568,157	96.9	6,725,904	97.1	
四国	11,784	95.1	10,966	95.6	127,165	96.4	497戸
徳島	3,178	94.4	2,982	96.1	34,757	95.9	151戸
香川	3,032	101.0	2,791	100.5	32,065	101.8	119戸
愛媛	3,466	92.2	3,219	92.3	37,614	93.8	154戸
高知	2,095	93.1	1,973	94.1	22,729	94.5	73戸

※四捨五入の関係上、合計値が一致していないことがあります。
 ※四国の実績には、公共分乳量が含まれていません。

2. 牛乳等の消費動向（農林水産省統計 1月まで）

- 1月の牛乳等向けの生乳処理量は、実績数量では前年同月比97.0%と牛乳の消費減と連動し、減少を示していますが、当初の予測よりは若干上回って推移している。
- 牛乳の消費量は、1月には96.7%と引き続きの減少傾向。成分調整牛乳は21年3月以降に急増したが、22年5月以降は伸びが一巡し、前年実績を下回って推移おり、1月は96.1%となっています。
- 加工乳・乳飲料・はっ酵乳は、今年度に入って堅調に推移しています。牛乳や成分調整牛乳より価格が安いことが考えられます。

3. 2月末の用途別販売実績と乳製品の需給動向

- 生クリーム等向け取引数量は2月114.4%、チーズ向け2月107.0%と増加傾向にあります。
- 乳製品需給は、需要量については脱脂粉乳、バター共に21年度後半より前年実績を上回る水準で推移している一方、製造量は22年5月以降、前年実績を下回っていることから、乳製品在庫量は減少傾向にあります。
- 全国の脱脂粉乳、バターの1月末時点の在庫量は、それぞれ60.7千トン(4.9ヶ月分)、22.6千トン(3.5ヶ月分)となり、脱脂粉乳は依然適正在庫水準を上回っていますが、バターについては適正在庫水準に近づいてきています。

四国の用途別生乳販売の動向

(単位：ト、%)

用途別	第1四半期	前年比	第2四半期	前年比	第3四半期	前年比
飲用牛乳向け	29,779	98.5	28,000	98.8	27,943	96.3
醗酵乳等向け	4,188	106.2	3,751	94.4	3,851	90.4
特定乳製品向け	2,932	75.2	1,029	65.2	1,814	96.9
生クリーム向け	345	112.2	374	126.6	339	116.5
チーズ向け	22	119.9	21	71.2	41	125.8
公共分	43	102.2	30	107.6	34	105.3
総受託乳量	37,309	97.1	33,204	97.0	34,022	95.9

用途別	1月	前年比	2月	前年比	4-2月累計	前年比
飲用牛乳向け	8,985	91.9	9,142	97.6	103,849	97.3
醗酵乳等向け	1,268	89.8	1,262	91.1	14,320	96.1
特定乳製品向け	1,424	129.3	459	74.2	7,658	85.2
生クリーム向け	89	108.9	98	107.4	1,246	117.5
チーズ向け	4	113.8	5	139.1	92	105.1
公共分	14	84.1	13	95.1	134	101.9
総受託乳量	10,516	95.1	10,979	95.6	127,299	96.5

※平準化単価は成分加算金を除いた、各種控除前単価。



四国生乳販連・行事だより

開催月日	会議名	協議内容・報告事項
場所		
11月9日	平成22年度上半期監査	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度上半期監査
四国生乳販連事務所2階会議室		
1月11日	第9回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度上半期監査実施に伴う結果報告 第26回臨時総会の招集並びに付議事項 平成23年度生乳取引 森永乳業徳島工場の閉鎖問題に係る経緯報告 平成22年度生乳計画生産対策に係る課題と対応並びに23年度の基本的な考え方 四国内の乳製品自家製造の現状と今後の対応 平成23年度季節別乳価の設定（需要期生乳生産奨励実施要項）
喜代美山荘 花樹海		
1月11日	第42回生乳受託販売委員会	<ul style="list-style-type: none"> 生乳需給を巡る情勢と四国地域の生産動向並びに需給調整の実施等 平成23年度生乳取引 平成22年度生乳計画生産対策に係る課題と対応並びに23年度の基本的な考え方 四国内の乳製品自家製造の現状と今後の対応 平成23年度季節別乳価の設定 平成23年度四国販連の事業展開
喜代美山荘 花樹海		
2月1日	第73回事業推進部会	<ul style="list-style-type: none"> 生乳需給をめぐる情勢と四国地域の生産動向並びに需給調整の実施等 平成23年度生乳計画生産対策の目標数量・実施手法等 平成23年度需要期生乳生産奨励の実施要領の内容の件 機能強化に係る課題（集送入合理化等） 乳製品自家製造を行う生産者と受託契約の締結
サンポートホール高松 5階会議室		
2月20日	第26回臨時総会	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度事業計画設定 平成23年度理事及び監事の報酬
ホテルニューフロンティア		
2月20日	第43回生乳受託販売委員会	<ul style="list-style-type: none"> 生乳需給をめぐる情勢並びに四国地域の生産状況等 平成23年度生乳計画生産対策 平成23年度生乳取引 平成23年度需要期生乳生産奨励実施要領 乳製品自家製造を行う生産者の部分委託に係る承認
全日空ホテルクレメント高松		

2月20日	第10回理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・生乳需給をめぐる情勢並びに四国地域の生産状況等 ・平成23年度生乳計画生産対策 ・平成23年度生乳取引 ・平成23年度需要期生乳生産奨励実施要領 ・乳製品自家製造を行う生産者の部分委託に係る承認
全日空ホテルクレメント高松		
2月20日	第43回生乳受託販売委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度生乳計画生産対策 ・平成23年度生乳取引 ・平成23年度理事及び監事の報酬 ・生乳需給をめぐる情勢並びに四国地域の生産状況等 ・平成23年度生乳計画生産対策 ・平成23年度生乳取引 ・平成23年度需要期生乳生産奨励実施要領 ・乳製品自家製造を行う生産者の部分委託に係る承認
全日空ホテルクレメント高松		

東日本大震災の被害に遭われた、酪農生産者、関係者の方々に謹んでお見舞いを申し上げます

～平成23年3月11日に発生した、「東日本大震災」発生により、未曾有の大津波、火災、停電、原子力発電所トラブル等に関連する様々な被害が、東北地方・関東地方の酪農生産者・業界関係者の方々に及んでいます。～

被害に遭われた皆様に、

四国の販連・関係団体役職員、酪農生産者一同、

心よりお見舞い申し上げます。

未だ被害の全貌が見えない状況にあり、

復旧まで多大なご苦勞があるかと存じますが、

この逆境を克服されるよう、心よりお祈り申し上げます。